

北海道小樽水産高等学校

船員ガイダンスで船員職業の魅力を伝える

12 月 6 日、北海道小樽水産高等学校で、北海道地方支部の執行部と道南支部の職場委員が講師役を担い、海洋漁業科 1 年生の生徒 26 人に船員ガイダンスを実施した。

本ガイダンスは、海運業・水産業や船員職業、現役船員の体験談といった講義を通して、船員職業に対する理解を深め、将来の職業選択の一助を担う事を目的とし、2 回目の開催となる。

はじめに池上幸太北海道地方支部副支部長からあいさつがあり、その後、執行部から海運業・水産業・船舶の種類の紹介、船員職業の説明を行った。

次に津軽海峡フェリーの現役船員である山崎主一職場委員から、航海士の仕事の内容や船員になったきっかけ、体験談を通して船員の魅力について講話を行った後、生徒たちの質問に丁寧に答えてガイダンスを終了した。

学校側からは「船員職業に興味を持って入学する生徒は減少傾向にある。この学校で今後も船員を志す生徒を育てていくためにも、この説明会を通して、より多くの生徒達に船員の魅力を伝えていきたい」とし、海員組合の継続的な出前講座の協力をお願いしたいとの意向が示された。

出席した生徒達は、本ガイダンスを通して、普段見る事の出来ない船内の作業風景写真などを見ながら、将来の進路決定の一助にしようと真剣に講義に聞き入っていた。

北海道小樽水産高等学校

明治 38 年「北海道庁立水産学校」として札幌市に開校し、全国でも屈指の伝統を誇る水産高校。明治 40 年に現在の小樽市若竹町に移転、昭和 25 年「北海道小樽水産高校」と改称し、学科改変等を経て、平成 15 年に、校舎内に潜水プールを備えた 3 代目の現校舎が落成し「海」「船」「魚」を学ぶには最高の教育環境が整い、専攻科生を含む生徒たちは進路実現に向け学んでいる。

北海道の 2 隻の実習船

若竹丸・北鳳丸

若竹丸と北鳳丸は、北海道教育庁が所有する漁業実習船。北海道にある 3 つの水産高校（北海道小樽水産高等学校・北海道函館水産高等学校・北海道厚岸翔洋高等学校）では、この 2 隻の実習船で遠洋航海実習を行っている。

「海員だより」